齒科領域ニ於テ觀血の處置ヲ要シタル 急性化膿性疾患ノ季節的、年齡的 竝ビニ部位の考察ニ就イテ

(大阪醫科大學齒科部入院患者竝ビニ一部外科室
外來患者ノ統計的觀察)

大阪醫科大學齒科教室(主任醫學博士弓倉繁家)

太 田 實

Eine statistische Beobachtung der akuten eitrigen Entzündungen
im Gebiete der Zahnheilkunde, die blutige Behandlungen
erfordert haben, von Dr. M. Ota.

目 次

第一章 緒 言	第一項 急性化膿性疾患ノ部位の考察
第二章 初診患者月別、性別統計	第二項 大阪醫科大學齒科部入院患者竝ビ
第三章 月別ニ依ル疾患ノ分類統計	ニ一部外科室外來患者ノ統計的觀察
第四章 年齡ト疾患トノ關係	察
第五章 各疾患ノ部位の考察	第六章 總 括

第一章 緒 言

吾々が日常臨牀ニ携ツテ居ル際、急性化膿性疾患ノタメニ、切開排膿ヲ必要トスル場合ガ、季節的、年齡的乃至ハ發生部位的ニ増減變化ノアル事ヲ想像セラルル場合ガ屢々アル。

余ハ上述ノ如キ關係ヲ統計的ニ考察シテ見タナラバ、興味アル結果ガ得ラレルデアラウト考ヘテ、大阪醫科大學齒科部ニ於テ切開排膿ヲ施シタルモノ、或ハ當然切開ヲ施サルベキ患者ヲ調査シ、各種ノ急性化膿性疾患ニ就テ、

(イ) 何月頃ガ最モコノ疾患ヲ起シ易キカ

(ロ) 何歳位ニ罹患率が高キカ

(ハ) 何レノ齒牙ガ原因齒トナリ易キカ

ヲ出來得ル限り多數ノ例ニ就キ、觀察ヲ試ミタ。

當齒科部ハ大正15年4月ニ創設サレ、昭和4年3月末日ヲ以テ滿3ケ年ニ達スル

モ、初年度ニ於テハ、創立當時ノ事トテ患者ノ數モ少ク、其ノ後日ヲ追フテ増加シ、切開排膿ヲ要シタル患者モ累進的增加ヲ見タ。從ツテ季節的關係ヲ見ル上ニ於テ正確ヲ期シ得ナカッタ故、次年度及ビ第3年度即チ昭和2年4月ヨリ昭和4年3月末日迄ノ滿2ケ年間ノ患者ニ就キ、診療簿ヲ基礎トシテ次ノ如キ結果ヲ得タノデアル。

如何ナル場合デモ、統計ノ作製ニ當リテ遭遇スル最初ノ困難ハ、種々多様ナル狀況ヲ或一定セル標準ノ下ニ纏メル事デアルガ、本統計ニ於テモ其ノ例ニ漏レズ、殊ニ急性化膿性疾患ニ於テハ、其ノ時々ノ術者ノ意見ニ仍ツテ、同一疾患ニ對シテモ或者ハ齒槽膿瘍ト診斷ヲ下シ、又或者ハ皮下膿瘍、齒齦膿瘍或ハ骨膜下膿瘍ト診斷ヲ附シテ居ル等ソノ程度、範圍ノ決定ニ苦心ヲ要シタ。

余ハ急性化膿性疾患ヲ、便宜上齒槽膿瘍、下顎智齒難生、骨膜骨髓炎、口腔底蜂窩織炎、頬膿瘍ノ5大別ニ分チテ、齒齦膿瘍、皮下膿瘍等ノ如ク、口腔内ノ或ルー局部ノ切開排膿ニ依リ、病勢ヲ輕減シ得タルモノハ、最モ共通のナ齒槽膿瘍ナル病名ヲ以テ表ハシ、病機ガ一層進行シテ、廣汎ナル頬部軟組織ヲ侵シ、外頬部ヨリノ切開或ハ口腔内ニ於テ、該部分ノ相當深キ切開ヲ必要トセルモノハ、頬膿瘍ト診斷シタ。又下顎智齒難生ヨリ原因シタル化膿性炎ハ、全部智齒難生ニ包括シタル上、下顎難生智齒統計表ニ於テ細別シタ。病機ガ主トシテ口腔底軟組織ノ蜂窩織炎ヲ起セル時ハ、口腔底蜂窩織炎ト診斷シ、骨膜及骨髓ノ炎症々狀ガ著明ナル者ハ骨膜骨髓炎ト診斷シテ、總テノ急性化膿性炎ヲ以上5大別中ニ分類附隨セシメタ。又同一人デ同時ニ二ツ以上

ノ化膿性炎ヲ併發シテ居ル場合ニハ、其ノ裡デ最モ著シキ症狀ヲ呈セルモノヲ以テ此ガ病名トシ、統計作製上ニ便スル事ニシタ。

第一表
初診患者月別性別統計表

月	男	女	男女合計	百分率
1月	151	114	265	6.33
2月	194	161	355	8.48
3月	213	179	392	9.36
4月	207	158	365	8.71
5月	204	168	372	8.88
6月	267	192	459	10.96
7月	203	161	364	8.69
8月	204	175	379	9.05
9月	213	145	358	8.55
10月	192	162	354	8.45
11月	156	128	284	6.78
12月	140	100	240	5.73
合計	2344	1843	4187	100
百分率	55.98	44.02	100	

第二章 初診患者月別性別統計

初診患者人員 4187人

男 2344人

女 1843人

初診患者ノ數ヲ季節的ニ觀察シテ見ルト、1月ヨリ氣候ノ暖クナルニ比例シテ其ノ數ヲ増シ、6月ニ於テ最高ニ達シテ居ル。6月以降ハ反對ニ漸減の傾向ヲ辿リ、夏ヨリ秋、秋ヨリ冬ニト氣候ノ寒クナルニツレテ、減少シテ居ル。コレハ一面氣候ノ關係モ大イニアルガ、大阪ノ

如キ商業都市ニ於テハ、商業上ノ閑散期デアルカ否カト云フ様ナ問題ガ、大イニ與ツテ居ルノデハナイカト思フ。換言スレバ急性化膿性疾患ノ如キ急救處置ヲ要スルモノハ別トシテ、齒科的補綴或ハ齒牙ノ豫防の治療ノ如キハ、アル程度迄延引スル事が出來ルタメニ、外界ノ狀態竝ビニ患者ノ境遇ニ支配セラレテ、初診患者ノ數ニ前表ノ如キ結果ヲ來シタルモノト想像スル。

第三章 月別ニ依ル疾患ノ分類統計

調査人員 4187人

男 2344人 55.98%

女 1843人 44.02%

右統計表中ニ記入セル人員 923人

男 554人 13.23%(調査人員ニ對シ)

女 369人 8.81%(調査人員ニ對シ)

入院患者總人員 265人 6.33%(調査人員ニ對シ)

男 173人 65.28%(入院患者總人員ニ對シ)

女 92人 34.72%(入院患者總人員ニ對シ)

急性化膿性疾患罹患人員 783人 18.70%(調査人員ニ對シ)

男 479人 61.17%(急性化膿性疾患罹患人員ニ對シ)

女 304人 38.83%(急性化膿性疾患罹患人員ニ對シ)

(1) 齒槽膿瘍罹患人員 512人

12.23%(調査人員ニ對シ)

65.39%(急性化膿性疾患罹患人員ニ對シ)

男 291人 56.84%(齒槽膿瘍罹患人員ニ對シ)

女 221人 43.16%(齒槽膿瘍罹患人員ニ對シ)

入院ヲ必要トセル人員 7人 1.37%(齒槽膿瘍罹患人員ニ對シ)

男 5人 女 2人

(2) 下顎智齒難生罹患人員 164人

3.92%(調査人員ニ對シ)

20.94%(急性化膿性疾患罹患人員ニ對シ)

男 115人 70.12%(下顎智齒難生罹患人員ニ對シ)

女 49人 29.88%(下顎智齒難生罹患人員ニ對シ)

入院ヲ必要トセル人員 83人 53.66%(下顎智齒難生罹患人員ニ對シ)

第 二 表 月 別 ニ ヨ ル

		急性化膿性疾患																	
月	性	齒槽膿瘍		下智齒難生		顎骨骨髓炎		口腔底蜂窩織炎		頰膿瘍		齒根囊腫		齒齦腫		濾胞性齒牙囊腫		癌	
		外來	入院	外來	入院	外來	入院	外來	入院	外來	入院	外來	入院	外來	入院	外來	入院		
1月	男	20	1	1	4	1	2	1	2	2	1		1						
	女	18		2	1			1	1					1			1		
	合計	38	1	3	5	1	2	2	3	2	1		1	1			1		
2月	男	24	2	5	4		2	1	1	3									
	女	14			2	1			1		2		4						
	合計	38	2	5	6	1	2	1	2	3	2		4						
3月	男	30		5	6	1		1	2			1	1	1					
	女	19		6	2					1	1								
	合計	49		11	8	1		1	2	1	1	1	1	1					
4月	男	25	1	3	8		1			1	3		1		1			1	
	女	19	1	3	4	1	2		1	1				1					
	合計	44	2	6	12	1	3		1	2	3		1	1	1			1	
5月	男	18		5	5		3	1	1	1		1	1						
	女	17		3		1					1		3						
	合計	35		8	5	1	3	1	1	1	1	1	4						
6月	男	32	1	4	10		4	3	2	1	1			1			1		
	女	17			3								2		1				
	合計	49	1	4	13		4	3	2	1	1		2	1	1		1		
7月	男	27		3	9	1	1		1		1								
	女	21		1	3				2										
	合計	48		4	12	1	1		3		1								
8月	男	19		8	10			1	1	1									
	女	18		7			1	1										1	
	合計	37		15	10		1	2	1	1								1	
9月	男	23		4	4	1	1		1		2		2	2		1		1	
	女	24		6	1		1	2		1	1		1	1					
	合計	47		10	5	1	2	2	1	1	3		3	3		1		1	
10月	男	27		2	3	1	3				1		2		1		1		
	女	17							1		1		1	2					
	合計	44		2	3	1	3		1		2		3	2	1		1		
11月	男	26		1	2	1	2		2	2		2	1					1	
	女	24	1	2	2			1		1				1					
	合計	50	1	3	4	1	2	1	2	3		2	1	1				1	
12月	男	15		5	4	2	2		2	1						1	1		
	女	11			1		2		1	1	2		1	2					
	合計	26		5	5	2	4		3	2	2		1	2		1	1		
計	男	286	5	46	69	8	21	8	15	12	9	4	9	4	2	2	3	3	
	女	219	2	30	19	3	6	5	7	5	8		12	8	1		1	1	
	合計	505	7	76	88	11	27	13	22	17	17	4	21	12	3	2	4	4	
總計		512		164		38		35		34		25		15		6		4	
百分率		55.47		17.77		4.11		3.79		3.69		2.71		1.63		0.65		0.	

疾 患 ノ 分 類 統 計

腫	外齒瘻		外傷ニヨ ル骨折		腐 骨		齒槽漏 齒根端 切 除		口内 炎		其 他		合 計			
入院	外來	入院	外來	入院	外來	入院	入院	入院	入院	入院	入 院 及 外 來		外來	入院	計	百分 率
	1	3		3			3				埋伏齒3 (男入院)		26	21	47	8.13
							3						22	6	28	
	1	3		3			6						48	27	75	
							1						33	10	43	7.63
		1					2	1				15	13	28		
		1					3	1				48	23	71		
							1	1					39	11	50	9.43
		3			1		3				齒齦肥大 321 123 (女入院)	27	10	37		
		3			1		4	1				66	21	87		
		1	2				2	2				拔牙窩出血 7(女入院)	32	20	52	9.53
												寒性膿瘍 6(女)	26	10	36	
		1	2				2	2				「オドントーム」54(女入院)	58	30	88	
				1			4						27	15	42	7.63
		1					1	2			寒性膿瘍 6(男)	21	8	29		
		1		1			5	2				48	23	71		
								2					40	20	60	9.43
	2							2				19	8	27		
	2							2				59	28	87		
									1				31	14	45	8.13
					1		2				異常ナル方向ヲトレル埋 伏遲延齒12(男入院)	23	7	30		
					1		2	1				54	21	75		
	1						4					埋伏過剰齒拔去 上左 (男 入院)	30	16	46	8.34
							3					27	4	31		
							7					57	20	77		
	1	1			1			1	3				34	16	50	10.08
	1						3		1		「アダマンチノーム」87 (男入院)	35	8	43		
	2	1			1		3	1	4			69	24	93		
					1								31	11	42	7.26
								3				19	6	25		
					1			3				50	17	67		
								1					33	9	42	8.23
						1	1				齒根端肉芽腫 8765(男入 院)	29	5	34		
						1	2					62	14	76		
	1												25	9	34	6.07
				1								15	7	22		
	1			1								40	16	56		
	4	5	2	4	2		16	5	3	2	5		381	173	554	60.02
	3	5	1		2	1	23	3	1	1	2		277	92	369	39.98
	7	10	3	4	4	1	39	8	4	3	7		658	265	923	
	17		7		5		39	8	4	10		923				
43	1.84		0.76		0.54		4.23	0.87	0.43	1.08		100				

男 69人 女 19人

(3) 骨膜骨髓炎罹患人員 38人

4.85% (急性化膿性疾患罹患人員ニ對シ)

0.91% (調査人員ニ對シ)

男 29人 76.32% (骨膜骨髓炎罹患人員ニ對シ)

女 9人 23.68% (骨膜骨髓炎罹患人員ニ對シ)

入院ヲ必要トセル人員 27人 71.05% (骨膜骨髓炎罹患人員ニ對シ)

男 21人 女 6人

(4) 口腔底蜂窩織炎罹患人員 35人

0.84% (調査人員ニ對シ)

4.47% (急性化膿性疾患罹患人員ニ對シ)

男 23人 65.71% (口腔底蜂窩織炎罹患人員ニ對シ)

女 12人 34.29% (口腔底蜂窩織炎罹患人員ニ對シ)

入院ヲ必要トセル人員 22人 62.86% (口腔底蜂窩織炎罹患人員ニ對シ)

男 15人 女 6人

(5) 頬膿瘍罹患人員 34人

0.81% (調査人員ニ對シ)

4.34% (急性化膿性疾患罹患人員ニ對シ)

男 21人 61.76% (頬膿瘍罹患人員ニ對シ)

女 13人 38.24% (頬膿瘍罹患人員ニ對シ)

入院ヲ必要トセル人員 17人 50.00% (頬膿瘍罹患人員ニ對シ)

男 9人 女 8人

急性化膿性疾患及其ノ他ノ疾患ヲ、切開ノ時期或ハ受診時期ニ依リテ表示スレバ前掲第二表ノ如クデアル。

此表ハ、常齒科部ニ於ケル總テノ入院患者及ビ急性化膿性疾患中切開排膿ヲ必要トシタルモノ、其他齒科方面ニ興味アル疾患ヲ網羅シタルモノデアルガ、齒槽膿漏、口内炎等ノ如クニ罹患患者數ガ非常ニ多ク、其ノ程度、範圍等ヲ決定シ難キ者ハ唯入院手術ヲ行ヘルモノノミヲ表示シテ、其ノ他ノモノハ省略シタ。

本統計ヲ通覽スルト、急性化膿性疾患中齒槽膿瘍ガ首位ヲ占メ、急性化膿性疾患罹患人員ノ65.39%ニ當リ、調査人員ニ對シテ12.23%デアル。次ハ下顎智齒難生デ20.94%ヲ占メ、調査人員100人ニ對シテ、約4人ノ人々ガ、智齒ニ惱マサレテ居ル事ガ解ル。

而シテ其ノ半數以上ハ入院手術ヲ必要トシテ居ル。即チ僅カニ2本ノ智齒ガ斯克モ恐ルベキ結果ヲ示シテ居ルノヲ見ルナラバ、慄然タルモノガアラウ。猶又細別表ニ依リテ、智齒ヨリ原因シタル種々ナル化膿性炎ヲ惟フ時、一層其ノ感ヲ深クスル。急性化膿性疾患ヲ罹患率ノ順ニ舉ゲルト、以上ノ他骨膜骨髓炎、口腔底蜂窩織炎、頬膿瘍ノ順序トナツテ居ルガ、然シ智齒ヨリ來タル種々ナル化膿性炎ヲ、疾患ノ種類ニ依リテ、此等ノ裡ニ加入シタナラバ、以上ノ順位ニハ、多少ノ變化ヲ來スモノデアル。

次ニ切開ヲ施シタル急性化膿性疾患ト、季節トノ關係ヲ見ルニ、第一圖ニ示シタル如ク、初診患者ノ多寡トハ必ズシモ一致シテ居ナイ。即チ初診患者ノ數ニ對スル切開患者ノ割合ヲ見ルニ、初診患者ノ多キ月ハ、切開度數ハ其ノ數ニ比較シテ尠ク、初診患者ノ尠キ月ハ切開度數ハ逆比例シテ居ル。

即チ下方ノ曲線ハ、此ノ間ノ消息ヲ物語ツテ居ルモノデアル。然シ罹患頻度ノ畫ク曲線ハ、大體初診患者ノ曲線ト一致シタ彎曲ヲ見セテ居ル。

第三表
急性化膿性疾患月別統計表

月	男	女	計	總計	百分率	各月ノ患者ノ初ニ率
1月	外來 25 入院 10	21 2	46 12	58	7.47	21.89
2月	外來 33 入院 9	15 5	48 14	62	7.92	17.46
3月	外來 37 入院 8	36 3	63 11	74	9.45	18.88
4月	外來 29 入院 13	24 8	53 21	74	9.45	20.27
5月	外來 25 入院 9	21 1	46 10	56	7.15	15.05
6月	外來 40 入院 18	17 3	57 21	78	9.96	16.99
7月	外來 31 入院 12	22 5	53 17	70	8.94	19.23
8月	外來 29 入院 11	26 1	55 12	67	8.56	17.68
9月	外來 28 入院 8	33 3	61 11	72	9.20	20.11
10月	外來 30 入院 7	17 2	47 9	56	7.15	15.82
11月	外來 30 入院 6	28 3	58 9	67	8.56	23.59
12月	外來 23 入院 8	12 6	35 14	49	6.29	20.42
合計	外來 360 入院 119	262 42	622 161	783	100	18.70
百分率	外來 45.98 入院 15.19	33.46 5.37	79.44 20.56			
百分率合計	61.17	38.83	100			

第一圖

季節ト初診患者ノ數並ビニ急性化膿性疾患罹患ノ頻度トノ關係圖表

第 四 表 年 齡 卜

[illegible]

[illegible]

以上ノ結果ハ、尙多クノ統計的觀察ヲ要シ、今後ノ觀察ニ依リテ、異ツタ結果ヲ齎スカモ知レナイカラ、玆ニハ單ニ過去2個年間に結果ヲ報告スルニ止メ、結論ハ今後ノ觀察ニ俟ツ事ニシヤウ。

第四章 年齢ト疾患トノ關係

本統計(第四表参照)ニ於テハ、幾多ノ興味アル事實ヲ指摘スル事ガ出來ル。先ヅ齒槽膿瘍ニ就イテ見ルニ、幼年期ニ於テハ、4歳乃至7歳ガ多ク、學齡ニ達スルト、急ニ減少シテ、16歳頃ヨリ漸増シ、青年期ヨリ壯年期ニ入ル頃、即チ24—25歳前後ニ於テ最モ罹患率が高く、最高率ヲ示ス24歳ニアリテハ、全齒槽膿瘍罹患人員ノ4.91%ヲ占メテ居リ、次イデ漸次減少シテ76歳ニ終ツテ居ル。

骨膜骨髓炎ハ、幼年及ビ壯年期ニ多ク、口腔底蜂窩織炎ニ於テハ、幼年期及ビ少年期ニ多キモ、頬膿瘍ニアリテハ特ニ或ル期ニ於テ多イト云フガ如キ關係ハ認メラレナカツタ。

智齒難生ニ於テハ、19歳迄ハ僅カニ1例ニ過ギズ、20歳ニ達スルト、急激ニ増加シテ、23歳及ビ26歳ニ各々10.52%ヲ示シ、智齒難生ノ最高罹患率デアル。

今以上ノ急性化膿性疾患ト年齢トノ關係ヲ總括的ニ觀察シテ見ルニ、齒槽膿瘍ニ於ケルト同様、幼年期ニ於テハ、5歳前後ニ多ク、學齡ニ達スルト共ニ減少シテ、16歳頃ヨリ漸増シ、20歳ニ達スルト智齒ニヨル脅威ト、齒槽膿瘍ニ依ル影響トニ相俟ツテ大ナル罹患數ヲ示シ、以後15年間程ハ、齒科領域ニ於ケル急性化膿性疾患ノ危險期デアル。就中24—25歳前後ニ多ク、最高罹患率ヲ示ス25歳ニ於テハ、全急性化膿性疾患罹患人員ノ4.82%ヲ占メテ居ル。

今之ヲ年齢代ヲ以テ表ハシテ見ルト下表ノ如クデアル。

年 齡	1歳— 10歳	11歳— 20歳	21歳— 30歳	31歳— 40歳	41歳— 50歳	51歳— 60歳	61歳— 70歳	71歳— 76歳
罹患人員	103	98	263	131	98	47	5	2
百分率	13.79	13.12	35.21	17.54	13.12	6.29	0.67	0.27

即チ21歳ヨリ30歳ニ至ル間ニ於テ、實ニ35.21%ヲ占メテ居ル。

第二圖ハ、急性化膿性疾患ト年齢トノ關係ヲ「グラフ」ニ依リ表ハシタモノデアル。

此圖ニ於テ骨膜骨髓炎、口腔底蜂窩織炎及ビ頬膿瘍ハ年齢中、中斷シテ居ル場所ガアリ、「グラフ」ニ表ハス事ハ不可能デアツタ故省略シタ。

年齢ニヨル急性化膿性疾患罹患頻度ノ表ス曲線ガ、以上ノ如キ關係ニアル所以ハ、齒牙交換前、交換期或ハソノ後ニ於ケル齶蝕罹患率ノ寡多ト云フ事ガ重要ナル原因ヲ

第 二 圖 年 齡 別 急 性 化 膿 性 疾 患 と ノ 關 係 圖 表

ナシ、其ノ他患者ノ口腔衛生ニ對スル理解力ノ有無或ハ初診患者月別統計表ニ於テ述ベタ如ク、患者ノ境遇ナリ或ハ四圍ノ狀態ト云フ如キ問題ガコレニ參與シテ居ル事ト思フ。

即チ理解力乏シク、乳齒ノ脱落期ニ近ヅケル4—5歳前後ニ於テ罹患率ガ高ク、學齡ニ達スル頃ヨリ乳齒ハ漸次永久齒ト交換ヲ始メ、他方口腔衛生思想ノ覺醒ト共ニ急性化膿性疾患ハ減少シテ來ル。次ニ交換ヲ完了シタ永久齒ハ再ビ齲蝕ニ侵サレ、化膿性炎ハ16歳頃ヨリ漸増シテ20歳頃ヨリ一層甚ダシク、智齒難生等モ手傳ツテ24—25歳前後ニ於テ非常ナ高率ヲ示スニ至ツタモノト想像スル。

第五章 各疾患ノ部位の考察

齒科方面ニ於ケル外來患者或ハ入院患者ノ統計的觀察ニ就イテノ報告ハ、決シテ尠クナイ。近クハ東京齒科醫學專門學校大井、岩澤兩氏ノ報告(過去2ケ年間ニ於ケル東京齒科醫學專門學校附屬醫院外科部外來患者ノ統計的觀察、齒科學報昭和2年度11月號)又九州帝大齒科部仲忠樹氏ノ報告(齒槽膿瘍ノ統計的觀察、日本之齒界昭和3年度9月號)等コレヲ涉獵シタナラバ、相當ノ數ニ上ルデアラウ。乍然各種疾患ノ範圍、程度、狀況等ヲ簡單ニ表ヲ以テ表ハス

事ハ、容易ナ事業デハナイ爲ニ、ソノ罹患部位、程度等ニ就テ統計的ニ觀察セルモノハ、餘リ見ラレナイ様デアル。只仲氏が、以上ノ表題ノ下ニ、齒槽膿瘍發生頻度ノ部位の考察ヲナシ、興味アル報告ヲサレテ居ルガ、余モ各種疾患ニ就イテ及ブ限リニ於テ、其ノ程度範圍ノ表示ニ努メテ見ル事ニシタ。

第一項 急性化膿性疾患ノ部位的考察

急性化膿性疾患罹患齒數 637 齒 (但シ下顎難生智齒及ビ骨膜骨髓炎罹患齒ハ此ノ中ニ含マズ)

内譯 { 永久齒 553齒 86.81% (急性化膿性疾患罹患齒數ニ對シ)
乳 齒 84齒 13.19% (同 上)

永久齒齒槽膿瘍罹患齒數 490齒

76.92% (急性化膿性疾患罹患齒數ニ對シ)

86.61% (永久齒急性化膿性疾患罹患齒數ニ對シ)

男 288齒 58.78% (永久齒齒槽膿瘍罹患齒數ニ對シ)

女 202齒 41.22% (同 上)

上顎 220齒 44.90% (同 上)

下顎 270齒 55.10% (同 上)

右側 234齒 47.76% (同 上)

左側 256齒 52.24% (同 上)

永久齒骨膜骨髓炎罹患齒數 (表示)

永久齒口腔底蜂窩織炎罹患齒數 32齒

5% (急性化膿性疾患罹患齒數ニ對シ)

5.79% (永久齒急性化膿性疾患罹患齒數ニ對シ)

男 19齒 59.38% (永久齒口腔底蜂窩織炎罹患齒數ニ對シ)

女 13齒 40.62% (同 上)

右側 20齒 62.50% (同 上)

左側 12齒 37.50% (同 上)

永久齒頬膿瘍罹患齒數 31齒

4.87% (急性化膿性疾患罹患齒數ニ對シ)

5.61% (永久齒急性化膿性疾患罹患齒數ニ對シ)

男 18齒 58.06% (永久齒頬膿瘍罹患齒數ニ對シ)

女 13齒 41.94% (同 上)

第 五
永久齒急性化膿性

病名	性	上 顎 右 側								上 顎 左 側								上 顎							
		8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
齒槽膿瘍	男	3	7	26	6	5	1	9	10	19	6	5	5	8	14	7	4	29	15	6	10	14	40	14	7
	女	4	7	11	8	7	3	4	4	6	3	3	7	6	10	1	1	10	7	6	14	14	21	8	5
	計	7	14	37	14	12	4	13	14	25	9	8	12	14	24	8	5	39	22	12	24	28	61	22	12
口腔底蜂窩織炎	男																								
	女																								
	計																								
頬膿瘍	男																								
	女													1								1			
	計													1								1			

齒 槽 膿 瘍(永久齒)

右 側 左 側

口腔底蜂窩織炎(永久齒)

表

疾患罹患者齒統計表

下 顎								下 顎 右 側								下 顎 左 側							
8	7	6	5	4	3	2	1	8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8
12	40	62	16	9	2	5	7	6	17	31	11	4	1		2	5	5	1	5	5	31	23	6
7	14	67	7	6	5	5	6	3	6	29	1	1	1	3	3	3	2	4	5	6	38	8	4
19	54	129	23	15	7	10	13	9	23	60	12	5	2	3	5	8	7	5	10	11	69	31	10
2	5	12						1	3	7										5	2	1	
2	3	8						2	1	6										2	2		
4	8	20						3	4	13										7	4	1	
1	1	15	1					1		7										1	8	1	
	2	8	2						2	4	1									1	4		
1	3	23	3					1	2	11	1									2	12	1	

齒槽膿瘍(永久齒)

上 顎 下 顎

頬膿瘍(永久齒)

上顎 1齒 3.23%(同 上)

下顎 30齒 96.77%(同 上)

右側 17齒 54.84%(同 上)

左側 16齒 45.16%(同 上)

下顎智齒難生(表示)

以上ノ表ニ依リ、永久齒急性化膿性疾患ノ罹患狀態ヲ考察シテ見ルト、上下顎ヲ通ジテ、下顎第一大臼齒が最も多數ヲ占メ、骨膜骨髓炎、下顎智齒難生ヲ除ク急性化膿性疾患罹患齒ノ27%ニ當ル。今此ヲ上顎同名齒ニ比較スルニ、約3倍ニ達スル事が解ル。

第五表ノ罹患齒中下顎智齒ハ、此ノ場合正常ナル位置ニ出齦シテ居ルモノヲ指シ、所謂難生智齒ハ含マレテ居ナイノデアル。

乳齒齒槽膿瘍罹患齒數 70齒

10.99%(急性化膿性疾患罹患齒數ニ對シ)

83.33%(乳齒急性化膿性疾患罹患齒數ニ對シ)

男 42齒 60.00%(乳齒齒槽膿瘍罹患齒數ニ對シ)

女 28齒 40.00%(同 上)

上顎 22齒 31.43%(同 上)

下顎 48齒 68.57%(同 上)

右側 33齒 47.14%(同 上)

左側 37齒 52.86%(同 上)

乳齒骨髓骨膜炎罹患齒數(表示)

乳齒口腔底蜂窩織炎罹患齒數 8齒

1.26%(急性化膿性疾患罹患齒數ニ對シ)

9.52%(乳齒急性化膿性疾患罹患齒數ニ對シ)

男 7齒 87.5%(乳齒急性化膿性疾患罹患齒數ニ對シ)

女 1齒 12.5%(同 上)

右側 2齒 25.00%(同 上)

左側 6齒 75.00%(同 上)

乳齒頬膿瘍罹患齒數 6齒

0.94%(急性化膿性疾患罹患齒數ニ對シ)

7.14%(乳齒急性化膿性疾患罹患齒數ニ對シ)

第 六 表
乳 齒 急 性 化 膿 性 疾 患 罹 患 齒 統 計 表

病 名	性	上 顎 右 側					上 顎 左 側					上 顎					下 顎					下 顎 右 側					下 顎 左 側							
		V	IV	III	II	I	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V	V	IV	III	II	I	V	IV	III	II	I	I	II	III	IV	V			
齒槽膿瘍	男	2	2				2	2	2		2	2				4	2	4	4	16	11		1				8	5				1	6	8
	女	1	1	1	1									3	1		1	1	4	2	13	7				7	3					4	6	
	計	3	3	1	1		2	2	2		2	2		5	3	4	3	1	8	6	29	18		1		15	8			1	10	14		
口 腔 底 蜂 窩 織 炎	男																		6	1						2					1	4		
	女																			1											1			
	計																		6	2						2					2	4		
頰 膿 瘍	男	1	1															1	1	3												3		
	女																		1							1								
	計	1	1																1	1	4					1						3		

齒 槽 膿 瘍(乳齒)

齒 槽 膿 瘍(乳齒)

右 側 左 側

上 顎 下 顎

口 腔 底 蜂 窩 織 炎(乳齒)

頰 膿 瘍(乳齒)

男 5齒 83.33%(乳齒頰膿瘍罹患齒ニ對シ)

女 1齒 16.67%(同 上)

上顎 2齒 33.33%(同 上)

下顎 4齒 66.67% (乳齒頰膿瘍罹患齒ニ對シ)

右側 3齒 50.00% (同 上)

左側 3齒 50.00% (同 上)

乳齒ニヨリ惹起サレタル急性化膿性疾患ハ、永久齒ニ比較シテ、15.16%ニ當リ、5歳前後ニ多ク、學齡ニ達スルト共ニ減少スル事ハ、第四章ニ記載シタル如クデアルガ、之ハ同章ノ終リニ述ベタル如キ理由ノ外當齒科部ノ診察時間ガ、急患ヲ除イテ、午前9時ヨリ午後4時迄ニ限ラレテ居ル關係上、就學兒童ノ小ナル切開手術ハ一般開業醫ニ委テラレテ居ル傾向ガアリ、從ツテ乳齒ニ原因シタル急性化膿性疾患ノ永久齒ニ對スル比率ハ、實際上ハ多少ノ變化ガアルカモ知レナイト考ヘテ居ル。

尙以上ノ表デ面白キ事ハ、乳下顎前齒ニ依ル齒槽膿瘍其ノ他ノ急性化膿性疾患ガ、僅ニ1例ニ過ギナイ事デアル。換言スレバ、上顎ニ比較シテ下顎前齒ニ依ル齒槽膿瘍罹患頻度ノ非常ニ少キ事デアル。之ト同様な現象ハ、永久齒ニ於テモ認メラレルガ、此ノ因ツテ起ル原因ヲ考察シテ見ルト、下顎前齒部ハ上顎前齒部ニ比較シテ食事時、流動食ニ依リ清淨サレ易ク、其ノ他機械的ニ清掃サレル機會ガ多キ爲デ、例ヘバ其ノ咬合關係ニ於テ上前齒ニ對シテ舌側の位置ニアル關係上、果物其ノ他食物ノ攝取ニ當リテ、常ニ自淨作用ヲ保ツ事が出來ルト云フ様な事が主因ヲナシテ居ルト想像サレル。

コレニ反シテ上顎前齒部ハ斯克ノ如キ天然ノ利ヲ有シテ居ナイノト一面、上唇ハ食物ヲ含ム如キ作用ヲ有シテ居ルガ爲ニ、下顎前齒部ニ比較シテ、食滓ヲ停滯シ易ク、從ツテ齶蝕罹患率モ當然高クナリ、齒槽膿瘍ノ切開度數ニ上述ノ如キ差異ガ生ジテ來タモノデハナカラウカ。

此ノ事實ハ赤坊診査會等ニ於テ、齶蝕ノ罹患狀態ヲ見ルナラバ、容易ニ頷カレル。即チ齶蝕ハ先ヅ上前齒唇面齒頸部ニ帶狀ニ發シテ、其ノ初期ハ、恰モ女子ノ綠色沈著ノ如キ外觀ヲ呈シテ居ル。弓倉博士ハ此ニ齒頸部帶狀齶蝕 (Gürtelförmige Halskaries) ト命名サレテ居ルガ、下顎前齒部ニ於テハ殆ンド見ラレナイカ或ハ現ハレルトシテモ餘程珍シイ事デアル。

乳、永久齒ヲ通ジテ、齒槽膿瘍ノ白齒部ニ於ケル罹患狀態ハ、概シテ上顎ヨリモ下顎ニ多キ事ハ、第五表及ビ第六表ノ示ス如クデアルガ、コレハ位置の關係上、上顎ヨリモ下顎ニ食物ガ停滯シ易イト云フ様な事ニ原因スルト思フ。又周圍骨組織ノ狀態、上下顎白齒部ノ營養ノ如キ問題モ、勿論大イニ關與シテ居ル。

口腔底蜂窩織炎ハ、永久齒ニ於テハ第一大臼齒ガ最も多ク、次ニ第二、第三大臼齒

ノ順位トナツテ居ルガ、乳齒ニ於テハ第二乳臼齒、第一乳臼齒ノ順位ナリ、永久前齒及ビ小白齒、乳前齒ニ起因シタル口腔底蜂窩織炎ハ1例モ發見シナカツタ。

頰膿瘍ニ於テハ、永久齒中下顎第一大臼齒ガ首位ヲ占メ、第二小臼齒、第二大臼齒ハ同數デ、次ニ第三大臼齒トナツテ居ル。茲ニ看過シ得ナイノハ、上顎齒牙中頰膿瘍ヲ起シタルモノハ、僅カニ1例ニ過ギナイ事實デアル。勿論此ノ場合化膿性疾患ノ分類ノ際ニ述ベタル如ク、頰膿瘍トハ、頰部軟組織ノ廣汎ナル化膿性破壊ヲ起シ、外頰部ヨリノ切開或ハ内側ノ相當深キ切開排膿ヲ要シタル場合ナル事ヲ記憶シテ頂ク必要ガアル。如斯頰膿瘍ノ少キ事ハ、上顎ニ起レル化膿性疾患ハ頰膿瘍ヲ起スニ至ラナイ迄ニ、早ク外側齒齦部或ハ口蓋側ニ排膿路ヲ求メルト云フ事ヲ意味シテ居ルノデハナイカト思フ。

乳齒ニ於テハ本統計ハ第二乳臼齒ニ限ラレテ居ルガ、勿論第一乳臼齒モ原因齒トナリ得ルモノデアル。上顎ハ永久齒ト同様下顎ニ比較シテ少キ事ガ解ル。

次ニ骨膜骨髓炎ニ就イテ見ルニ第七表ノ如クデアル。

第 七 表

骨 膜 骨 髓 炎 罹 患 部 位 (永 久 齒)

		右側										左側							
例	性	年位 部齡	8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8	
上	第 1 例	男	37											○	○	○	○		
	第 2 例	女	33														○	○	○
	第 3 例	男	32												○	○	○	○	○
	第 4 例	男	26												○	○			
	第 5 例	男	57											○	○	○	○	○	○
	第 6 例	男	53															○	○
	第 7 例	男	50											○					
	第 8 例	女	25		○	○	○												
	第 9 例	女	50			○	○	○											
	第 10 例	男	不明		○	○													
	第 11 例	男	30						○	○	○	○	○	○					
下	第 12 例	男	54															○	
	第 13 例	男	38										○	○	○	○	○	○	○
	第 14 例	女	39										○	○	○	○			
	第 15 例	男	29														○	○	○
	第 16 例	女	26													○	○	○	
	第 17 例	男	26														○	○	
	第 18 例	男	21														○	○	○
	第 19 例	男	20														○	○	
	第 20 例	男	28		○	○	○												
	第 21 例	男	10			○													
	第 22 例	男	29	○	○	○	○	○											
	第 23 例	男	33		○	○	○	○	○										
	第 24 例	男	34	○	○	○	○	○	○	○	○								

○罹患部位ヲ示ス

骨膜骨髓炎罹患部位(乳齒)

○罹患部位ヲ示ス

此表中上段單純ナル難生智齒トアルハ、智齒周圍炎ヲ起シタルモ盲囊周圍ノ洗滌ニヨリ、病機ノ鎮靜ヲ來シタルモノ、其他何レニセヨ切開ヲ必要トシナカツタ難生智齒中入院抜去ヲ行ヘルモノヲ指シテ居ル。次ノ智齒周圍炎トハ、未ダ外頰部ヨリノ切開或ハ大ナル手術ヲ必要トセズ、頰側齒齦部ノ單純ナル切開排膿ニヨリ、病勢ヲ軽減シ

第 八 表
下顎難生智齒統計表

智齒ニ原因 セル疾患	性	右側	左側	左右 合計
單純ナル難 生智齒拔去	男	9	9	18
	女	3	8	11
	計	12	17	29
智齒周圍炎	男	35	43	78
	女	18	14	32
	計	53	57	110
頰 膿 瘍	男	3	5	8
	女			
	計	3	5	8
骨膜骨髓炎	男	3	4	7
	女		1	1
	計	3	5	8
骨膜骨髓炎 + 口腔底蜂 窩織炎	男	2		2
	女	1		1
	計	3		3
扁桃腺周圍 膿瘍	男	1	4	5
	女	3		3
	計	4	4	8
合 計	男	48	70	118
	女	25	23	48
	計	73	93	166

得タルモノヲ意味シテ居ルノデアル。

本表ニ於テハ、男子ハ女子ノ2倍半以上智齒ニ悩マサレテ居ル事が分ル。

本統計表中ニ記入シタルモノハ、入院拔去ヲ行ヘルモノ及ビ切開手術ヲ施シタル患者ノミデアルガ、單ニ「リバノール」ノ洗滌ノミニ依リ、腫脹疼痛ノ輕減ト共ニ、以後來院シナイ患者ヲ算入シタナラバ、難生智齒ニヨル化膿性炎ハ莫大ナルモノデアル。

第二項 大阪醫科大學齒科部入院患者

竝ビニ一部外來患者ノ統計的觀察

今迄述べた來タ急性化膿性疾患以外ノ患者
デ、當齒科部ニ於テ取扱ヘル齒科方面ノ興味アル疾患ヲ表示シ、參考ニ供スル事ニシタ。

齒根囊腫(第九表)

根先端ニ緩慢ナル慢性ノ刺激ガアレバ、齒根
 囊腫ハ總テノ齒牙ニ起リ得ル事ハ勿論デアル。

第 九 表

菌 根 囊 腫 發 生 部 位

右側 左側

[illegible]

下 顎	第 18 例	男	57					○	○	○	○						
	第 19 例	男	47			○	○										
	第 20 例	男	36				○	○	○								
	第 21 例	男	21								▼						
	第 22 例	女	16							○	○						
	第 23 例	女	35									○	○				
	第 24 例	男	32														○
	第 25 例	男	31														○

▼ 過剰齒(上顎右側切齒間) ○ 罹患部位ヲ示ス ▼ 第二乳白齒ヲ示ス

大キサニ於テモ、單ニ一齒ニ限ラレテ居ルモノヨリ、數齒ニ互ツテ居ルモノ等、千差萬別デアルガ、玆ニ記載シタルモノハ相當ノ大キサニ達シタモノデ、單ニ原因齒ノ拔去ニ止マラズ、尠クトモ複雑ナル外科的處置ヲ必要トシタルモノヲ舉ゲタノデアル。第九表ハ齒根囊腫ノ發生部位ヲ示シタモノデアルガ、大ナルモノニ於テハ5齒ニ互ツテ居ルモノサヘアル。

上顎ハ絶對多數ヲ占メテ居リ、臼齒部ヨリモ前齒部ニ多ク、就中側切齒ノ部位ニ最も多ク發見スル。

齒齲腫

第 十 表
齒 齲 腫 發 生 部 位

例	性	年齢	發 生 部 位	例	性	年齢	發 生 部 位
第 1 例	女	18	上顎大白齒口蓋部	第10例	男	52	56
第 2 例	女	46	21 12	第11例	男	61	左側部位不詳
第 3 例	女	65	87	第12例	男	62	7ノ頰側
第 4 例	女	28	321 123ノ脣側及ビ口蓋側	第13例	男	15	321 123ノ脣側
第 5 例	女	22	321	第14例	男	1	左側部位不詳
第 6 例	女	48	87	第15例	男	18	2 3ノ間過剰齒ノ部位
第 7 例	女	37	左側扁桃腺側	合 計			男 6 例 上 顎 5 例
第 8 例	女	34	67				下 顎 8 例
第 9 例	女	20	1 2ノ間				女 9 例 部位不詳 2 例

當齒科部ニ於テ遭遇セル齒齲腫ハ、過去2箇年間ニ於テ15例ヲ有シテ居ルガ、他ノ疾患ガ毎常女子ヨリモ男子ニ多ク經驗シテ居ルニ反シテ、此ノ場合ハ男子6例、女子9例ニテ、全然反對ノ關係ニアル。

上顎ハ5例、下顎8例、其ノ他2例

第 十 一 表

病 名	例	性	年齢	發 生 部 位	病 名	例	性	年齢	發 生 部 位
癌 腫	第 1 例	男	48	8 ノ後方	外傷ニヨル骨折	第 7 例	女	45	下顎、骨折部位不詳
„	第 2 例	男	49	8 7 6 5 4 3 2 1	骨壞疽	第 1 例	男	34	下顎部位不詳
„	第 3 例	男	66	上顎骨右側下眼窩孔ノ近ク	„	第 2 例	男	53	3+3
„	第 4 例	女	45	78	„	第 3 例	女	53	76
濾胞性齒牙囊腫	第 1 例	男	43	1	„	第 4 例	女	7	6 V
„	第 2 例	男	32	1 1 ノ間過剰齒	„	第 5 例	女	66	下顎兩側
„	第 3 例	男	7	II I ノ間圓錐齒	種 類				
„	第 4 例	男	9	3	入院ヲ要セル口内炎	第 1 例	男	36	汞毒性口内炎
„	第 5 例	男	不明	5	„	第 2 例	男	37	壞疽性齒齦炎
„	第 6 例	女	25	1 1 2 ノ間ノ埋伏齒	„	第 3 例	男	39	潰瘍性口内炎「カタル」性口内炎
外傷ニヨル骨折	第 1 例	男	28	下顎骨折 54 ノ間	„	第 4 例	女	27	汞毒性口内炎
„	第 2 例	男	42	321 12 ノ齒槽突起骨折	合 計	癌 腫	男 3 例	女 1 例	上顎 3 例 下顎 1 例
„	第 3 例	男	24	下顎骨折 21 ノ間		濾胞性齒牙囊腫	男 5 例	女 1 例	上顎 6 例 下顎 ナシ
„	第 4 例	男	32	2 ノ齒槽突起骨折		外傷ニヨル骨折	男 6 例	女 1 例	上顎 1 例 下顎 6 例
„	第 5 例	男	30	下顎骨折 321 ノ部位		骨 壞 疽	男 2 例	女 3 例	上顎 ナシ 下顎 5 例
„	第 6 例	男	35	下顎骨折 32 ノ間		入院ヲ要セル口内炎	男 3 例	女 1 例	

濾胞性齒牙囊腫 (第十一表)

表示セルモノハ 6 例ニテ、全部上顎ニ發生セルモノデアル。

男 5 例、女 1 例

癌腫 (第十一表)

4 例ヲ有シ、40—50 歳前後ニ多ク、年齢的ニ觀察シテ興味ガアル。

「オドントーム」

22 歳ノ女 54 ノ部位ニ發生セルモノ

「アダマンチノーム」

37 歳ノ男 87 ノ部位ニ發生セルモノ

口内炎、齒槽膿漏等ハ罹患者數多ク、殊ニ齒槽膿漏ニ於テハ、大部分ノ人々ガ輕重ノ差コソアレ多少罹患シテ居ルト云フモ過言デナイ狀態デアル故ニ茲ニハ單ニ入院手術ヲ行ヘルモノ或ハ入院ヲ必要トシタル口内炎患者ヲ表示スルニ止メタ。又齒槽膿漏

ノ手術部位ニ於テモ、少數ヲ除イテ殆ンド六前齒ニ限ラレテ居ル關係上、全部省略シタ。(第二表、第四表、第十一表參照)

外齒癰

第 十 二 表
外 齒 癰 原 因 齒 ノ 部 位
右 側 左 側

	例	種 類	性	年 部 位 齡	8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8	
上 顎	第1例	內背癭	女	36				○	○	○											
	第2例	頰 癭	男	26				○													
	第3例	„	男	30			○														
下 顎	第4例	頰 癭	女	48													○				
	第5例	„	女	29														○			
	第6例	„	男	21															○		
	第7例	„	女	16			○														
	第8例	„	女	18			○														
	第9例	„	男	32		○	○														
	第10例	„	男	35	○	○															
	第11例	„	女	10																	
	第12例	„	男	27	○	○															
	第13例	„	男	23			○														
	第14例	„	男	33		○															
顎	第15例	頤 癭	男	24									○								

○ 罹患部位ヲ示ス

上顎齒ガ、頰膿瘍ヲ起ス場合ノ尠キ事ハ、既述シタル如クデアルガ、外齒癰ニ於テモ下顎 12 例ニ對シテ上顎ハ僅カニ 3 例ニ過ギナイ。

齒根端切除

上顎小白齒部 3 例、同前齒部 3 例、下顎小白齒部 1 例、同前齒部 1 例ヲ有ス。

其ノ他二三ノ疾患ニ就イテハ第十一表及ビ第四表下段ヲ參照シテ頂キタイ。

第六章 總 括

以上ノ統計ヲ總括シテ要點ヲ述ベルト、

(1) 本統計ニ於テハ、初診患者ノ數ヲ月別ニ觀察シテ見ルト、1 月ヨリ漸増シテ 6 月ニ於テハ最高ニ達シ、以後漸減の傾向ヲ辿ツテ居ル。急性化膿性疾患ノ罹患率モ之ト略一致シタ傾向ヲ取ルガ、必ズシモ初診患者ノ數ト比例シテ増減シナイ。

(2) 急性化膿性疾患ヲ年齡的ニ考察スルト、5 歳前後ニ多ク、學齡ニ達スルト共ニ減少シテ、16 歳頃ヨリ再ビ漸増シ、24—25 歳ニ於テ最高罹患率ヲ示シテ居ル。而シテ以後 10 年間程ハ最モ該疾患ニ侵サレ易イ。

(3) 下顎智齒ハ 20 歳頃ヨリ障礙ヲ起シテ、24—25 歳ニ於テ最高ニ達シ、以後 10 年

間程ガ危險期デアル。

(4) 口腔底蜂窩織炎ハ幼年期及ビ少年期ニ多イ。

(5) 骨膜骨髓炎ハ幼年期及ビ壯年期ニ多イ様デアル。

(6) 頬膿瘍及ビ骨膜骨髓炎ハ上顎ヨリモ下顎齒ニ多ク見ラレル。概シテ急性化膿性・疾患ハ、上顎ヨリモ下顎ニ多イ。但前齒部ニ於テハ下顎ヨリモ上顎ニ多イ。

(7) 永久齒ハ第一大臼齒、乳齒ハ第二乳臼齒ガ最モ化膿性疾患ヲ起シ易イ。殊ニ下顎第一大臼齒ニ於テ最モ著シイ。

(8) 下顎智齒ハ他齒ニ比シテ、遙カニ其ノ周圍組織ノ急性炎症ヲ起シ易キ事ガ解ル。

(9) 上顎ニ於ケル齒根囊腫ハ下顎ニ於ケルモノヨリモ屢々數齒ニ互レル事ヲ認メル。

(10) 外齒癰ハ上顎齒ニ原因スル事少ク、下顎齒ニ多イ。

擱筆スルニ當リ終始御懇篤ナル御指導ヲ賜ハリシ恩師弓倉教授竝ビニ御多忙中種々御助言ヲ賜ハリシ東京高等齒科醫學校教授金森虎男先生ニ深甚ナル謝意ヲ表ス。